

◎景気ウォッチャー調査[2021年4月]

2021年4月の中国地域調査結果の概況

■景気の現状に対する評価

現在の景気を3か月前と比較するとその評価は次のとおりであった。

景気の現状判断D I (合計)は、前月を11.5ポイント下回る41.9となった。

分野別にみると、家計動向関連は、「良くなっている」、「やや良くなっている」の回答の割合が減少し、「4月に入り全国的に新型コロナウイルスの感染者数が急激に増加しており、戻りかけていた来客数や客の購買意欲に悪影響を与えている。」(百貨店)、「関西を中心とする新型コロナウイルス感染者数の急増により、客足が伸び悩んでいる。」(高級レストラン)等の理由から、「やや悪くなっている」、「悪くなっている」の回答の割合が増加したため、前月を13.0ポイント下回る39.7となった。

企業動向関連は、「良くなっている」、「やや良くなっている」の回答の割合が減少し、「新型コロナウイルスの影響が再び出始めたことで、飲食関係などが悪くなっている。」(農林水産業)等の理由から、「やや悪くなっている」の回答の割合が増加したため、前月を4.5ポイント下回る47.0となった。

雇用関連は、「やや良くなっている」の回答の割合が減少し、「新年度を迎えて求職者の動きが鈍くなっており、新規の応募数も減少している。」(人材派遣会社)、「自己都合離職者が増加傾向にあり、新規求職者数が前年を上回っている。特に介護施設や医療関係事業所の退職者が目立ち、長引く新型コロナウイルスの影響が少なからずある。」(職業安定所)等の理由から、「やや悪くなっている」の回答の割合が増加したため、前月を15.4ポイント下回る47.1となった。

	4月	3月	前月差
合計	41.9	53.4	-11.5
家計動向関連	39.7	52.7	-13.0
企業動向関連	47.0	51.5	-4.5
雇用関連(参考値)	47.1	62.5	-15.4

■景気の先行きに対する評価

現在より3か月先の景気の先行きに対する評価は次のとおりであった。

景気の先行き判断D I (合計)は、前月を12.4ポイント下回る40.7となった。

分野別にみると、家計動向関連は、「良くなる」、「やや良くなる」の回答の割合が減少し、「客の購買意欲が弱い。新型コロナウイルスが更に深刻化してきており、ワクチンの接種も進んでいないことから、景気が好転する要因がない。」(家電量販店)、「新型コロナウイルスの感染が今後も続き、所得減少による節約のため、来客数、客単価が下がり、売上の前年割れが続く。」(スーパー)等の理由から、「やや悪くなる」、「悪くなる」の回答の割合が増加したため、前月を12.5ポイント下回る39.7となった。

企業動向関連は、「良くなる」、「やや良くなる」の回答の割合が減少し、「新型コロナウイルスの終息時期が不透明で協力会社や当社の生産が減少することから、景気はやや悪くなる。」(一般機械器具製造業)、「主要客からの内売量の大幅な減少があったため、景気は悪くなる。」(輸送用機械器具製造業)等の理由から、「やや悪くなる」、「悪くなる」の回答の割合が増加したため、前月を9.1ポイント下回る42.4となった。

雇用関連は、「やや良くなる」の回答の割合が減少し、「イベント休止、外出規制など4都府県を対象とした緊急事態宣言や新型コロナウイルス第4波の影響が当地域にも及びつつある。」(新聞社)、「緊急事態宣言発出により、卸売・小売業や飲食・サービス業の採用活動が悪化する。」(職業安定所)等の理由から、「やや悪くなる」の回答の割合が増加したため、前月を18.4ポイント下回る44.1となった。

	4月	3月	前月差
合計	40.7	53.1	-12.4
家計動向関連	39.7	52.2	-12.5
企業動向関連	42.4	51.5	-9.1
雇用関連(参考値)	44.1	62.5	-18.4